

南ヶ丘病院を核とした 野々市市の市民協働のまちづくり



宮崎俊聡

特定医療法人扇翔会 南ヶ丘病院 理事長

栗 貴章

野々市市長

石川県野々市(ののいち)市は、県のほぼ中央に位置する。市の人口は2025年6月末現在5万4557人で、ここ10年緩やかに人口増が続いている。背景にあるのは、土地区画整理事業による良好な市街地形成だ。市西部に位置する西部中央土地区画整理事業では、市外から誘致した南ヶ丘病院を核としたまちづくりが進み、子育て世代の定住につながっている。このまちづくりについて、栗貴章野々市市長と宮崎俊聡特定医療法人扇翔会 南ヶ丘病院 理事長が対談。地域への思いを語り合った。

栗 野々市市長の要です。当市は、2011年11月11日の市制施行から間もなく14年を迎えます。市制施行後、2016年に、市内最大の総合公園、野々市中央公園(6・7号)の北西隣接地区に、西部中央土地区画整理事業がスタートしました。この事業は、健康・福祉・防災をテーマとする環境共生型の住環境創出を目的としたものです。施行面積約21号。総事業費約40億円のプロジェクトです。

これまで市内に診療所は数多くありましたが、総合的な病院がありませんでしたので、南ヶ丘病院さんにこの事業地に移転していただき、まちづくりの核になっていただきました。おかげさまで順調にまちづくりが進み、27年度に事業完成の運びとなっています。

宮崎 特定医療法人扇翔会 南ヶ丘病院 理事長の宮崎です。南ヶ丘病院は当時、石川県金沢市にあり、建物は築40年を数え老朽化が進んでいました。また、新しい医療機器の導入や医師の増員もあ

り、手狭にもなっていました。近隣で移転先を探しましたが、見つからない状況でしたので、野々市市さんからお声がけをいただき、「大変ありがたい」とお引き受けした次第です。

おかげさまで病院は21年6月に新築移転することができました。当院の診療科は野々市市から要望の多かった小児科、様々な疾患に

対応する内科、整形外科、リハビリテーション科、麻酔科など14科で、一般病床120床です。

当初は田んぼの真ん中にボツンと建っておりましたが、その後、数件のドラッグストアが outlet、23年にはスーパーマーケット「どんたく」を核にした商業施設「アクロスプラザ野々市中央」が開業し、周辺環境が大きく変化しました。

病院を核としたまちづくりで子育て世代の定住につながる

栗 市の悩みの一つは若い世代の流出でしたが、このまちづくりによって商業施設やIT企業の進出につながり、将来に向けて期待を感じていただいている住民が増えたと受け止めています。

子育て世代の定住にもつながっています。将来に対する不安が解消され、健康・福祉・防災拠点が整備されることで安心・安全も確保されました。南ヶ丘病院さんの移転のお陰で、ずっと安心して暮らすことができるまちづくりができたという思いです。

宮崎 移転に際して期待したことは、若い方々の通院です。また、建て替えによって病室を完全個室にしました。おかげさまでコロナ禍の時は、感染症対策に役立ちました。今は建築費が高騰し建て替

えが難しい状況なので、本当に良いタイミングで新築移転ができたと思っています。また、当院としては、移転によつて金沢医科大学との連携が強化されたことが大きいと感じています。整形外科医が不足した際、金沢医科大学が医師を派遣していた



野々市市庁舎



南ヶ丘病院

だき、そこから交流が深まりました。開放している当院の手術室を使用いただくことで手術件数が大幅に伸びましたし、その後のリハビリを強化することで早期退院にもつながっています。関節、骨折など整形外科に対応する症状も拡大できました。

また、地域のそれぞれの医療機関と機能分担が明確になることで患者さんにとってのメリットも多く、疾患によって最適な医療が受

診可能な状況になっていると感じています。

実は栗市長とは高校時代の同級生なんです。この関係が地域づくりに役立てばうれしいですね。

栗 おかげさまで、南ヶ丘病院さんには市としていろいろなお願いをさせていただいています。

例えば、災害発生時の福祉避難所の開設・運営に関する協定も締結させていただいています。病院には非常電源の設備も備えている